

建築デザインコンテスト「design et a」でリビンググダイニングスペース「アジア太平洋部門」の最優秀賞に選ばれた岳麓翠苑



富士河口湖町の古民家 改装ホテル「岳麓翠苑」

国際コンテストで部門最優秀

富士レークホテル(富士河口湖町船津、井出泰済社長)が運営し、登録有形文化財の古民家「井出新宅」(同所)を改装したキュレーションホテル「岳麓翠苑」が、国際的な建築デザインコンテスト「design et a」で「リビンググダイニングスペース」アジア太平洋部門「最優秀賞を受賞した。築2005年の伝統的な日本建築と芸術作品を統合した高いデザイン性が評価された。

コンテストは、世界中の約1千件のデザインプロジェクトの中から約30の部門でそれぞれ入賞、部門最優秀賞が選ばれる。各国の約10万人が投票に参加。岳麓翠苑は「リビンググダイニングスペース」アジア太平洋部門「で最優秀賞に選ばれた。同ホテルによると「伝統的な日本建築と井出家の美術コレクション、デザイン性の高いインテリアが調和している点が評価された」という。

岳麓翠苑は1819年に建築され、母屋が文化庁の登録有形文化財。改装はインテリアデザイナー沢山乃莉子さんが監修し、昨夏にオープンした。3室のゲストルーム、リビンググダイニング、バスルームなどを備える。富裕層のインバウンド客をメインターゲットとし、現在、海外向けのPR動画なども製作している。富士レークホテル女将の井出薫子さんは「富士山に關係するさまざまな美術品や、地元現代アーティストの作品を飾っているほか、館内のソファ生地やリネン類には郡内織

物を使用している。地域の文化や伝統、産業の魅力も併せて情報発信していきたい」と話していた。(渡辺真紗美)